



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Show Rotary Cares・『ロータリーの心を』
1997～98年度・国際ロータリーテーマ／グレンW・キンロス会長

『ロータリーの原点』に立ち『新鮮な眼でクラブライフを』
1997～98年度・東京新南ロータリークラブテーマ／武下 朗会長

◎本日の例会 □「退任のご挨拶」

6月26日第565回例会

会長 武下 朗 君
副会長 山下 忠治 君
幹事 渡部 一元 君

「退任のご挨拶」

会長 武下 朗

この1年間ありがとうございました。

健全な堀内会計、職業倫理を中心に伊部委員長、ボランティアで新境地開拓の吉田委員長、ダイオキシンの新認識を佐々木委員長、奨学生のお世話や米山寄付、R財団寄付のとりまとめの苦勞を関委員長、小杉修造委員長、クラブの命、会員増強で大奮闘の宮本委員長、時代に即した職業分類の提案、荒木委員長、迅速な会員選考の河原委員長と佐藤副委員長、的確な見どころ、読みどころ紹介の雑誌委員会、本年度クラブ運営の柱となった田辺情報委員長と委員会の皆さん、「この苦勞がわかってたまるか」クラブ会報委員会の皆さん、元気なタクトをソングリーダーの皆さん、プログラムの新しい道を開いた入沢委員長、気苦勞いっぱいの親睦活動を高須委員長、小杉眞史副委員長、すべての時間励行と値上げなしで食

事をおいしくした吉岡SAAと副SAAの皆さん等等。

とても内容のあるすばらしい1年間でした。
スタート時思ったことは、私はこうした立場に立ったことはないことと、実にミスマッチなお役目で、ご迷惑だけはかけないようにしなければいけないということでした。でも幸か不幸か、頼りない会長は会員の見事な活躍におろおろついて行くだけでよかったのです。でも私はほんとうにこれでよかったと心から思っています。
私達にはまず自分の職業があります。家族があります。そして色々とかかわりあっている社会があり、その中にロータリーがあります。これからもバランスのとれた健全な心で、ロータリーとおつきあいできたらいいと思います。1年間のご協力に感謝して退任のご挨拶とさせていただきます。

副会長 山下 忠治

本年度は10周年記念行事やIMの開催年であった前年度と異なり華々しさはありませんでしたが、武下会長が提唱した「ロータリーの原点に立ち、新鮮な目でクラブライフを…」のスローガンのもと、会員各位が一人ひとりその意図するところを汲み、任務を遂行していただきました。

クラブ奉仕活動については各委員会とも委員長、副委員長をはじめ委員の皆様が自主性を以って積極的に活動していただいたお蔭で、中味の濃い成果を挙げることができました。特筆すべきは、会員増強委員会の目覚ましい活躍であり、増強と退会防止に協力を惜しまなかった会員諸氏であります。新年度の組織が決まるや逸早く活動を開始し、7名の新会員を生み出しました。委員長をはじめとする関係者各位の粉骨砕身のご努力にはただ頭

の下がる思いです。昨今の内憂外患の経済情勢を思うとき、まさに面目躍如たる成果であります。

さて、副会長としてこの一年、クラブの為に何をしてきたかと自問すれば、まさに汗顔の至りで慚愧に堪えません。幸い渡部幹事が細部に亘っての気配り、心配りをいただき大いに助けられました。

私は未だロータリーの高邁な理想を遠くから眺めているだけですが、牛の歩むごとくでもよい、かたつむりの這うごとくでもよい、遅々としてではありますがロータリーの理想に少しでも近づくことができれば、そしてポール・ハリスの謂う「ロータリーの目標は人生を豊かにすることである」を実感することができれば、それ以上望むものはありません。

“一年間お世話になりました”

幹事 渡部 一元

本年度最後の例会に当たり、一言ご挨拶申し上げます。思えば昨年7月4日、新年度のご挨拶をして依頼、早一年経ちました。その時、私は二つの事を申し上げました。一つはロータリーは基本に忠実でなければならない、例えば例会。12時半に始まって13時半に終わる。もう一つはロータリーは分りやすい、風通しのよい組織でありたいとお話しました。出来たかどうか分かりませんが精一杯努力しました。勿論これは、会長以下各委員長、委員の皆様のご協力あってのことであるのはいうまでもありません。今年度は、私の8年間のロータリー生活でもっとも充実した年でありました。会長、副会長、会計に恵まれ、良きお人柄と共にバランスの取れたご判断を常にいただき、本当に実り多い一年でした。

各委員長・副委員長・委員にも恵まれました。ほんの一例を順不同に申し上げますと、先ず会員増強。5人の

素晴らしい新会員を年度前半に入れていただきました。本当に頭が下がります。プログラム及び会報。毎週毎週ご苦勞さまでした。この二つの委員会は、内なる職業奉仕として大変重要な機能かと存じます。ロータリー情報。その積極的な取り組みで、おかげさまでずいぶん勉強しました。社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕。関連委員会を含め一年間多彩な活動の傍ら、理事会をよく助けていただきました。そして親睦活動委員会。一年間フル回転、如何に大変だったか、感謝の気持ちでいっぱいです。SAA。息の合った例会運営、楽しい思い出です。予定の字数が尽きました。その他の委員会の皆さん、お礼の言葉を言い尽くせません。

最後に事務局の山中さん一年間有り難う御座いました。皆さん、一年間お世話になりました。

◎次週予告 □「就任のご挨拶」

7月3日第566回例会

98-99年度会長 宮武 保義 君 98-99年度副会長 小湊 雅亮 君 98-99年度幹事 大日方 真 君



一昨年秋、当クラブが主催した千代田分区分IMの討論会に提起した課題の一つは「クラブの自主性」であった。去る3月のクラブフォーラムで、この自主性の問題を更に掘下げて討議して頂いた。又先月のクラブセミナーに芝RCの直前会長鈴木弘さんをお招きして、同クラブの30周年記念「綱領研究会」の成果をお聞きしたが、同クラブ今後の重要な柱は「職業奉仕」「自主性の確立」「ロータリーはクラブであるとの自覚」の3項目に示ばれたと話された。

何故このように今、自主性が強調されるのか、それは最近のクラブの奉仕の選択、実践に個人、クラブの自主性が失われつつあるとの危惧を多くのロータリアンが抱いているからに違いない。そして自主性の維持が困難になっている分野が国際奉仕の分野であり、しかもこの分野が益々拡大の度を強めている。

所謂四大奉仕の中で、クラブ奉仕はクラブ自身のことであり、職業奉仕は会員個人が考え実践すべき分野であり、社会奉仕は基本的に会員個人、或いはクラブが自らの目で確かめ、自らの手で触れることの出来る対象への奉仕であるから、これら三奉仕部門は、ほぼ完全に個人或いはクラブの自主性をもって取組むことができる。

ところが国際奉仕分野はその歴史が示すように、奉仕分野を拡大しようとするれば、会員個人やクラブがその目で確かめ、その手で触れることの出来る対象にまで手を広げることになるので、自らの独自の発意や判断、即ち自主性の発揮は極めて困難になる。

ロータリーで国際奉仕的な活動が始ったのは第1次世界大戦に際し、ヨーロッパや米国のRCが難民救助や傷病兵慰問を手がけて以来である。これらの活動は時宜を得た、またロータリーらしい自主的な国際奉仕のききがけであった。そして戦争への反省から、国際親善、交流が国際理解を深め戦争防止に役立つとの認識から、1921年ロータリーの綱領に国際奉仕の項目が追加されたのであった。

奨学制度を目的として1917年に設立された「ロータリー基金」は、後にR財団に改組されたが1947年まで30年間殆ど休眠状態であった。1947年ポール・ハリスの死後、ポール・ハリス奨学基金の募金を行った処、多額の寄付金が集り、その後は積極的な寄付金募集の成功により、教育的プログラムを推進して来た。R財団の各種奨学制

度と、世界の各クラブ間の「青少年交換制度」とはクラブが直接関与する面が多く、ロータリーに相応しい国際奉仕であると云えよう。

しかし、ロータリー創立75周年を期してR.I.が計画した3Hプログラムは、R.I.の募金に対する世界のロータリアンの反対で成功せず、R.I.はこのプログラムを1980年R財団に移管して今も財団で継続していることは昨年7月のクラブセミナーで申し上げた。更に1986年よりはポリオプラス・プログラムを、全世界のロータリアンの寄付により財団は実行している。R財団はポリオプラス事業資金の寄付をロータリークラブ以外の一般人にも仰ぐこととし、募金専門の業者を使って(手数料を払って)寄付募集を行っている。

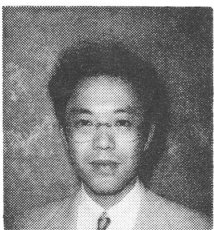
効果だけを重要視するならば、有効かもしれないが、それでは他の奉仕団体、例えばライオンズクラブの行き方と同じではないか。ライオンズは例会毎に1人1万円～2万円のdonationを要請され、これをプールしてクラブ、或いは本部が奉仕事業を決定すると聞いている。奉仕事業が大きくなれば本部や地区の役割が大きくなり、クラブの自主性は薄れてしまい、ライオンズ手法が当然のようになろうとしている。RCには、ロータリーの理念に基いて活動する奉仕部門と、ライオンズ的理念に基いて活動する奉仕部門とが併存し、この理念を使い分けるのだろうか。

最近R.I.が強く推進している世界社会奉仕に対する対応は、通常後進国クラブからの要請を受身の形で取り上げることになる。先方の国情も、現地の環境、事情も的確に把握できず判断に苦しむことが多からう。しかし、クラブとして取り上げるときには、担当委員会は真に納得し、責任をもって理事会に説明できる自信をもつまで、時間と労力をかけても慎重に検討を行って頂きたい。

受身の取組みであるからには、それ位の自主性が必要と思う。また、取組後の結果について先方クラブがどのような処理を行い、どのような成果収めたかにつき報告書を取り、理事会に報告をして頂きたいと思う。相手を見ることなく書面審査で、みんなのおカネを使うのであるからそれだけの責任はあろう。

キンロスR.I.会長は「ポリオプラスによって、われわれは世界の松舞台に上がった」と云い、ジャイ直前会長は、国連WHOのエイズ局長との間にエイズ・プログラムについて非公式の覚え書きに調印したと発表している。このような国際奉仕分野の拡大に対し、吾々はロータリアンとしての対応を考えておかねばなるまい。

新会員のご紹介 (98年6月19日ご入会)



生年月日 1962年8月18日生 (35歳)

事業所 (株)アイ・エイチ・エー

役職 代表取締役

所在地 〒105-6016

港区虎ノ門4-3-1

城山ビルズ16F

TEL 5403-4926 FAX 5780-5531

石川 泰 啓 君

職業分類 総合経営診断

ロータリー歴 諫早西RC 1992.8～1998.5 在籍

住 所 〒106-0031

港区西麻布1-4-51

Jパーク乃木坂206

TEL 3402-7801

推薦者 山下忠治君、宮本正祥君

回慶事披露 ●誕生日祝/沖 宏之君 (6月21日)、川鍋二郎君 (6月21日)、平井逸夫君 (6月24日)

●100%出席/加藤昌明 (8年)、村川 優君 (7年)、村山公士君 (3年)

回出席報告 ●会員72名/出席45名・欠席27名 (出席規定免除者1名)、ビジター10名



6月19日/10件 30,000円

97～98年度累計 2,232,992円

多額の寄付を感謝いたします。

(順不同、敬称略)

村山公士、金光圭一、吉岡琢磨、小杉真史、田中 武、関 征春、T. CONSIGNY、馬場一廣、小杉修造、松原秋夫

(紙面の都合上コメントを省略させていただきました。)

本号をもちまして本年度会報委員会の担当は終わりました。1年間皆様のご協力とご愛読に感謝申し上げます。

(クラブ会報委員会)

東京新南ロータリークラブ

会長: 武下 朗 副会長: 山下忠治 幹事: 渡部一元

〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日 ●毎週金曜日 12時30分

例会場 ●東京全日空ホテル 〒107-0052 東京都港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111

<会報委員>

新保 國彦、荒木 昭文、廣瀬 哲久、

青野 信次、宮川 弘信、開発 英基、

田中 武、小杉 真史、川鍋 二郎、

立林 英昭、吉田 用親、村山 公士

(編集担当順)